日本考古学会第121回総会記念

公開講演会

事前申込制

富雄丸山古墳

とみおまるやまこふん

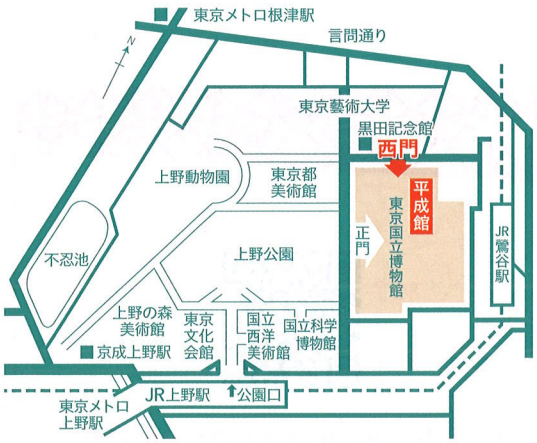
発掘最前線

蟠龍文盾形銅鏡　奈良市蔵

2023年 11月25日(土)

東京国立博物館 平成館大講堂

時　　間　13:00 開場
　　13:30～14:00 総会（非会員の方も傍聴可能です）
　　14:00～16:30 公開講演会
参 加 費　無料
定　　員　350名
申込締切　11月2日(木)
主　　催　日本考古学会
共　　催　東京国立博物館



Access

JR上野駅▶徒歩15分 / JR鶯谷駅▶徒歩10分

西門よりご入場ください　※正門からはご入場いただけません。

＼驚異の発見！／

日本最大の蛇行剣と謎の盾形銅鏡

奈良市富雄丸山古墳は、４世紀後半に築かれた国内最大の円墳です。江戸時代から知られており、明治時代には大規模な盗掘も受けましたが、昨年から今年にかけて行われた発掘調査で、国宝級の大発見があり全国的な話題となりました。出土場所は、円墳の北東の端にある造出しと呼ばれる部分から検出された埋葬施設。そこから出土した副葬品は、考古学者が今まで見たこともなかった盾形の銅鏡と長さ2m37cmの最大の蛇行剣でした。これらの成果は、当時の金属加工技術の高さを示すと共に、日本の国づくりが一気に進んでいく「謎の四世紀」の解明に大きく貢献するものです。

この講演会では、今回の発掘調査ならびに遺物の保存処理に携わった奈良市埋蔵文化財調査センター、奈良県立橿原考古学研究所のお二人をお招きし、最新の調査研究の成果を報告していただきます。あわせて現在も発掘調査が進む現場の臨場感あふれる情報についても発信いたします。また、石製模造品からみた富雄丸山古墳と東日本の古墳の関係について、東京国立博物館の所蔵資料にも触れつつ古墳文化の東方伝播に新たな光を当てます。

今までに例のない盾形の銅鏡と蛇行剣と共に葬られた古墳の被葬者は、いったいどのような人物だったのか？古代史ファン必聴の講演会が、いよいよ東京国立博物館ではじめて開催されます。

講演1 富雄丸山古墳の調査成果

鐘方 正樹 奈良市埋蔵文化財調査センター　所長

講演2 富雄丸山古墳の鼉龍文盾形銅鏡と蛇行剣をめぐって

岡林 孝作 奈良県立橿原考古学研究所　学芸アドバイザー

講演3 石製模造品の起源と古墳文化の東方伝播

河野 一隆 東京国立博物館　学芸研究部長

講演会参加お申込み方法

右記のQRコードまたはURLより必要事項（氏名、ご連絡先、メールアドレス等）をご記入の上、お申込みください。

- 日本考古学会会員の皆様もお申込みください。
- 応募者数が定員を超えた場合は抽選となります。（会員優先）
- 博物館展示室へのご入場はできません。

https://form.artpr.jp/kouko1125

お問合せ先　kouko1125@ohanapr.co.jp